

日本教育岩手

● 〒020-0024 盛岡市菜園1-11-15

日本教育会岩手県支部 TEL 019-623-8100

● 代表 川村 祥平



教職の魅力実感・向上に向けて

岩手県小学校長会 会長 前川 岳詩

(盛岡市立中野小学校校長)

「我が国の未来を左右しかねない危機的状況」。教員不足や長時間労働、メンタルヘルスの問題等、現在の教職員を取り巻く状況に、中教審より強い懸念が表明される中、(株) パーソル総合研究所が昨年10月、教員のウェルビーイングに焦点を当てた調査を行いました。この調査から同所は、教職が本来の魅力を高め、憧れの職業となるための要素を二つ挙げています。一つは「不幸せ実感」に関連する過重労働や処遇への不満の解消、もう一つが「幸せの実感」に関連する他者貢献や自己成長の機会の確保です。校長には、これらを両輪で実現する具体的に、実効的な取組の推進が求められています。

教職員の労働環境整備を巡っては、5月に中教審「質の高い教師の確保特別部会」が中間まとめを

発表し、今後の教師を取り巻く環境整備の方向性として、①学校における働き方改革の加速化、②指導・運営体制の充実、③教師の処遇改善の三つを一体的・総合的に推進することの重要性を指摘しています。特に学校現場においては、校長の強いリーダーシップにより、「過重労働」や「不幸せ実感」を改善する働き方改革を一層進めていかなければなりません。

もう一つの「幸せ実感」と関連する「他者貢献」について、先の調査では教員がやりがいをもっと実感する業務として、子供の成長を実感したり、指導がうまく伝わったりするときに挙げられています。

秋田県大館市教育委員会の高橋善之教育長は、過日行われた日本教育会岩手県支部の講演会で、「アランチSES（家庭の社会経済的背景）」を合言葉に、数々の施策を

通じて子供たちの学力向上や自己肯定感の高揚を実現した実践を紹介しました。そこには、高橋教育長の「格差を打破するのが公教育の役割」との強い信念の下、高い使命感と気概を持って子供たちに真摯に向き合い、その成長に確かな手ごたえとやりがいを実感する先生方の姿が伺えました。

教師が感じる子供たちの成長実感は、使命感があつてこそ得られるものであり、学校経営においては今一度自分たちの学校の存在意義や教職員に課せられた役割を全員で確かめ合う場の大切さを感じます。その上で、校長は教職員一人ひとりと対話を基に、確かな力を身に付けた教職員の人材育成に努めていかなければなりません。

豊かな可能性を秘めた子供と共に歩み、その子の将来に関与する教職は、魅力に満ちた仕事です。教職員が健康で、子供たちの成長を互いに喜び合える職場づくりの実現のために、校長のマネジメント力が問われています。



支部長
川村 祥平

就任挨拶及び「日本教育岩手」200号発刊

縁がありまして、力不足と経験不足は承知しつつ、この大役をお引き受けいたしました。次代の岩手を、日本を担う子どもたちの夢や希望の実現のため精一杯努力して参ります。皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

岩手県支部の課題の一つは会員の減少です。これに伴い予算の減少そして支部活動の縮小につながってきています。各団体や様々な教育活動への助成が従前のように行かなくなり、子どもたちを育成する教育活動の推進が弱くなつて参ります。

皆様からのご指導、声かけ等によつて会員の増加を図っていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

本誌「日本教育岩手」は昭和57年日本教育会岩手県支部が発足した年に第1号が発刊され、以来42年間多くの方々から執筆していただきながら、今回記念すべき第200号発刊の運びとなりました。この「日本教育岩手」に携わった皆様方には感謝深いものがありでしょう。巻頭言、地区会だより、博物館の紹介、随想、学校の取り組み、スポーツ、伝統芸

能、学校キラー等時宜を得た内容のものでした。今後は、年3回の発刊となります。回数は減ります

が、充実したものにしていきたいと思います。今後ともご協力よろしくお願

令和6年度支部定期総会 新支部長に川村祥平氏選出 今年度の事業計画等を承認

令和6年度日本教育会岩手県支部定期総会は、5月25日(土)午後1時から、ご来賓、理事、監事、代議員、支部役員の52名が出席して、盛岡市のサンセール盛岡で開催されました。

開会行事で、副支部長から「岩手県支部は全国有数の支部であります。日本教育会主催の教育実践立野田中学校が会長賞を岩手県立花巻清風支援学校北上みなみ分教室が奨励賞を受賞したことは岩手の高い教育水準を表しています。岩手県支部は会員の皆様や学校現場に役立つ事業をさらに進めて参



新旧役員挨拶

ります。みな様のご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます」との挨拶がありました。

次いで、ご来賓を代表して岩手県教育委員会教育長佐藤一男氏と岩手県市町村教育委員会連絡協議会会長多田英史氏からご祝辞をいただきました。

続いて議事に入り、議長には、盛岡市立杜陵小学校長の中村幸子氏と盛岡市立下橋中学校長の泉澤毅氏を選出し、事務局が提案した令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度活動方針及び事業計画・予算案が審議され、全ての議案が承認されました。また、役員選考委員会が推薦を受けた支部役員案について審議され、支部長川村祥平氏ほかの新役員が承認されました。

今年度の総会をもって、支部長を令和元年度から5年間にわたり務め岩手県支部の発展にご尽力された八重樫勝氏が辞任されることになりました。副支部長を9年にわたつて務められ事務局長や本部役員を務めた三浦壯六氏と監事の

令和6年度 日本教育会岩手県支部役員

支部長
副支部長

監事

理事

理事・組織事業部長
広報出版部長
調査研究部長
事務局長
事務局次長
書記
東北ブロック代表理事

地区会長 事務局長

(会長)

(事務局長)

盛岡 高畑 嗣人 田代 航
岩手 中田 直雅 三田地 優
紫波 畠山 秀一郎 小原 賢

川村 祥平
新沼 敏哉
高橋ひさ子
玉川 英喜
飯岡竜太郎
澤村 憲照
前川 岳詩
高橋 一佳
佐藤 宣昌
金澤 広利
佐藤 尚
有馬 賢
佐々木 晋
佐藤 利康
佐々木 一成
外館 邦博
佐野 理
内澤 英明
中村 雅英
中川 誠悦
平澤千麻子
若林 晶子
高橋ひさ子

和田英氏、組織事業部長の藤岡宏章氏も今総会をもって辞任されました。

記念講演は高橋善之氏

「人を生かし、育てる

マネジメントへの二考察」

総会終了後、午後2時半から講演会が行われ、秋田県大館市教育

令和5年度第14回教育実践顕彰事業

本県の応募2校

共に受賞！

令和5年度（公社）日本教育会主催の当事業には、全国から選りすぐりの30編の応募がありました。今回、本県からは野田村立野田中学校（菊池勉校長）と岩手県立花巻清風支援学校北上みなみ分教室（坪谷有也副校長）の2編の応募があり、大変喜ばしいことに前者が最高位の会長賞、後者が奨励賞と、共に荣誉に輝きました。

野田中学校の「ふるさと野田を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」復興教育『太陽プロジェクト』12年間の取組を通して「は、東日本大震災の翌年から復興教育（太陽プロジェクト）を教育の柱として様々な取組を続けてきた中での教育的効果について、諸調査やアンケートの結果から生徒の変容を明らかにし、今後

委員会教育長の高橋善之氏から「ふるさとキャリア教育の14年」と題してご講演をいただきました。「大館ふるさとキャリア教育」「おおだて型授業は学びの交響楽」「教育のイーハトーヴ連邦の形成」などについて、熱く語っていただきました。

（講演の概要は次号で紹介します）



野田中 菊池校長

の取組の方向性をより確かなものにすべく取り組んだものです。震災前からの全国学調（質問紙）での経年比較、カイ2乗検定及び諸要素からの相関関係での分析と具体数値には説得力があり、素晴らしい内容です。中でも「自己有用感」「自尊感情」等の有意向上は、生徒個々のものに留まらない大きな成果であり、学びたい実践事例

です。

また、花巻清風支援学校北上みなみ分教室の『自立と社会参加』に向けた地域協働活動「地域から頼りにされる子どもたち」は、キャリア発達の視点を踏まえながら地域社会との関わりを見出し、地域との協働を創出することを目指した2年間の取組です。小学部は運動公園入り口の花壇への苗植えと公園内のベンチの塗装、中学部はベンチの修繕やバス停小屋の修繕などを、いずれも地域住民や各種団体、工務店や塗装会社の方々と一緒に行い、成功体験を味わっています。人や地域社会との関わりで得た自信が主体的な学びを生み、更に人生や社会づくりに生かしていこうとする意識や積極性から、特別支援教育の理念である自立と社会参加に結び付けようとしています。

両校の論文は、全国に本県教育の確かな歩みと実践・先進性を知らしめました。今年度も皆様の意欲的な応募をお待ちしています。



花巻清風支援学校
北上みなみ分教室 坪谷前副校長

令和6年度

一般財団法人岩手県教育振興基金役員

理事長		川村 祥平
副理事長		高橋 一佳
理事		星 俊也
理事		泉澤 毅
理事		佐藤 宣昌
常務理事		菅原 壽
常務理事		菅原 新沼 敏哉
監事		菅原 久慈 孝
監事		福岡喜久子 伊藤 茂美
評議員		川村 文孝 嶋 隆
評議員		吉川 健次 坂本 裕典
評議員		上田 淳悟 西郷 晃
評議員		佐藤 尚

花巻	沼田 弘二	佐々木健一
遠野	中浜 艶子	菊池 国子
北和	澤田 育生	門屋 健司
胆沢	久保田 淳	菅原 文江
江刺	菊池 慧	佐々木由香里
一関西	勝部 孝行	古川 泰也
一関東	皆川 修	藤原 洋
気仙	菅野美保子	新沼 健
釜石	河東 眞澄	佐々木一成
宮古	青笹 光一	藤島 洋介
下北	村木 登	三浦紀久果
九戸	大芦 賢一	外館 邦博
二戸	筒井 裕一	吉田 隆

いわての教育実践研究～その18～



「自立と社会参加」に向けた地域協働活動

～地域から頼りにされる子どもたち～

前岩手県立花巻清風支援学校北上みなみ分教室
現岩手県立久慈拓陽支援学校 副校長 坪谷 有也

日本教育会主催の「令和5年度第14回教育実践事業」に応募した野田村立野田中学校が「会長賞」に、県立花巻清風支援学校北上みなみ分教室が「奨励賞」に輝きました。本県特別支援学校から初めての応募となった花巻清風支援学校北上みなみ分教室の取組について、前副校長の坪谷有也先生から論文の概要をまとめて頂きました。

1 概要

本分教室は、知的障害のある児童生徒を対象とした分教室であり、昨年度は小学部から中学部まで15名の児童生徒が在籍していた。北上市立南小学校と北上市立南中学校内にそれぞれ、小学部と中学部が設置されている。

地域協働活動を本格的に始めた契機は、本校である岩手県立花巻清風支援学校が令和4年に創立50周年を迎えた際、地域の方々に感謝の気持ちを伝える活動を行ったことである。そこで、本分教室においても所在する北上市におい

て、地域の環境整備を行った。子どもたちは「人の役に立ちたい」「地域を良くしたい」という思いをもち、地域の人と関わりながら学び、その学びの成果から得られる地域の方々の称賛、北上市に分教室があり、そこで豊かに学ぶ子どもがいるという存在の承認、そして個々に達成感や自信を感じている。

2 取組の内容

(1) 小学部

令和4年度は、北上総合運動公園（以下、運動公園と記す）入口の花壇の花苗植えを行った。障害福祉サービス事業所や地域住民、ライオンズクラブの方と交流しながら取り組んだ。ライオンズクラブから「皆さんのおかげできれいな花壇になった。これからもずっと一緒に花のお世話をしていきたい」との言葉をいただいた。

5年度は「授業でよく利用する公園をきれいにしたい」という思いから塗装会社とライオンズクラブ、北上市スポーツ協会の方と一緒に公園内のベンチの塗装を行った。塗装会社の職員に刷毛やローラーの使い方を教わり、器用に使



花苗植えの様子

いながら夢中になって塗ることができた。塗装会社からは「みんなで力を合わせて塗ったベンチが地域の人に親しまれ使われてほしい」との言葉をいただいた。また、塗装の際に、知的障害のある児童でも上手に塗ることができるよう多くの種類の刷毛やローラーをお持ちいただいた。「共に活動する」ために、学校側が要望を伝えなくても企業側が自ら考える姿が見られた。

一般的に障害のある子どもたちは、高等部卒業後に自宅のある地域で生活することが多い。した



ベンチ塗装の様子

がつて、地域との連携協働は重要である。本分教室では小学部段階から地域協働活動を実施しており、早期からの取組が実社会での生きる力につながると考えている。また、知的障害があっても「地域のために自分たちができるところ」があることを子どもたち自身が理解することは、社会に積極的に参加・貢献していく態度の育成につながる。自立と社会参加を実現するための取組の一つであると考えている。

(2) 中学部

令和4年度は運動公園内のベンチの修繕を行った。自分たちで塗装した木材を公園に持ち込み、工務店と北上市スポーツ協会の方と一緒に設置した。工務店からは「生徒たちと一緒に活動することが大切で、今後もこうした活動を継続

5年度は運動公園前のバス停小屋を修繕した。前年度の経験もあることから、中学部生徒は地域協働活動について「なぜ、何のために」行うのかを理解している。バス停小屋修繕は、工務店の方から教わりながら支柱をペンキで塗り直したり、自治会の方と一緒に地面を整地して製作したベンチを設置した。また、北上市花いっぱい運動推進協議会からいただいた花もプランターに植えて、バス停に彩りを添えた。自治会長からは「皆さんのおかげで素晴らしいバス停になった。これからも地域と様々な交流を重ねていってほしい」との言葉をいただいた。今後もバス停管理は積極的に行うが、高齢化が進む自治会と本分教室に共に必



ベンチ修繕の様子

していききたい」との言葉をいただいた。

要とする関係性が広がりつつある。また、中学部はこの地域協働活動を併設する北上市立南中学校の文化祭で毎年発表している。発表後、中学校の生徒から「分教室のみんなは地域の人のために、ベンチを直してすごいと思った」などの感想をいただいたが、同じ年代の中学生からもう評価も本分教室の生徒の成長に大きくつながっている。更に中学校にとっても分教室の発表は、キャリア教育を推進する場となっており、共生社会を創る未来の担い手である中学生が多様性を理解し、差別や排除を行わず、お互いの良さを認め合おうとする価値観が広がってきている。

3 「知的障害教育」から見た本取組の魅力

知的障害教育においては、様々な環境の中で体験的な学習を繰り返す経験を大切にしてきたが、本



バス停小屋修繕の様子

活動の最大の魅力は活動が「体験あつて学びなし」ではなく、活動そのものが地域のための活動であり「地域の役に立つ」とことと一体的に展開されている点である。そのため、子どもにとっては「なぜ、何のために」行っているのかが分かりやすい。また、例えば自分たちが修繕したベンチが「モノ」として役立つ姿が公園を利用するたびに可視化されていることで学習成果を感じやすい。

4 「協働的な学び」から見た本取組の魅力

本分教室では「協働」とは「地域の方と共に互いに関わり合いながら、公園の環境整備等に取り組み、その成果等を実感すること」として捉えている。したがって、この「協働」を達成するためには、互いに関わり合いながらできる活動内容の設定が重要である。そこで、本分教室では例えば、小学部であれば「図画工作」、中学部であれば「作業学習」の知識や技能が結びつき、思考が深まるような活動の在り方を工夫した。そして、学校の外に「できる状況づくり（精いっぱい取り組み、首尾よく成し遂げられるようにするための状況づくり）」を進めた。すなわち「協働」するためには、必然的に障害のあるなしや障害の重さに関わらず、共に活動したヒト同士がお互いを価値ある存在として認識することになり、令和答申の「多様な

他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する」という「協働的な学び」の趣旨の実現につながっていると見える。

5 成果

バス停小屋修繕では「ベンチがあつて待ち時間に座ることができて助かっている」との感謝の声をいただいている。このような声をいただいたことで、子どもたちは自分たちの活動によって地域をより良くできることを実感している。また、企業側から「保育所の本棚と一緒に作ろう」と求められるなど、子ども自身が自分が必要とされる存在であることに気づき、他者からの求めに応じようとする姿も見られてきている。

6 まとめ

今般の学習指導要領改訂の基本的な方向性を示した答申においては「子どもたちは様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感の積み重ねは、学んだことを人生や社会づくりに生かしていく」という意識につながっていくことが示されている。地域協働活動の概念の帰結は、特別支援教育の理念である「自立と社会参加」につながると思われる。「特別支援学校の子ども」から「地域から頼りにされる子どもたち」へ。地域協働活動の更なる充実を目指したい。

地区会だより

盛岡地区会

令和6年度総会・研修会の開催

7月2日(火)、サンセール盛岡において、令和6年度理事会、総会及び研修会(岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会との共催)を開催しました。

総会では、県支部から川村祥平支部長、内澤英明広報出版部長をお迎えし、55名の地区会員の参加のもと、令和6年度の活動計画や予算案等を協議し、承認いただきました。

引き続き行われた研修会では、

盛岡大学文学部非常勤講師、元IBCアナウンサーの照井 健氏から、



講演をする照井 健氏



総会参加者の様子

「伝える大切さ」を演題にご講演を頂戴しました。講演の内容は多岐にわたり、長きにわたるアナウンサーの経験をもとに、興味深いお話をたくさんお聞きすることができました。特に、東日本大震災津波発災の際の、命を守るためにアナウンスで心がけたことや、被災した方々に思いをよせるアナウンスについてお聞きし、言葉を伝えることの意義や自分の言葉で懸命に伝えることの大切さを教えていただきました。さらに、伝えることとともに、聞くことの大切さもご指導いただき、大変示唆に富む講演となりました。

研修会後の懇親会は、講師もお招きし、約90名の参加のもと、大いに親睦、交流を深め、有意義な時間とすることができました。
(事務局長 田代 航)

○岩手県高等学校長協会

▼盛岡地区(1名) 矢鳴慶之

▼岩手地区(3名)

寒河江研哉・和田健利

菊池由美子

▼花巻地区(1名) 沼澤信典

▼遠野地区(1名) 三浦幸哉

▼一関西地区(1名) 田淵健

▼一関東地区(2名)

大石敦子・熊谷道仁

▼気仙地区(2名)

宇夫方聰・伊藤治子

▼釜石地区(2名)

志田敬・安達史枝

▼宮古地区(1名)

三浦顕悟

▼九戸地区(2名)

村山薫美・石川えりか

(16名)

○岩手県高等学校副校長協議会

▼盛岡地区(6名)

高橋健・小野寺一浩・五十嵐忠義

大懸慈人・熊谷知暁・伊藤仁志

▼北上地区(1名) 千葉賢一

▼一関東地区(1名) 齊藤耕子

▼気仙地区(2名)

及川伸也・奥村珠久子

岩手県教育振興基金 寄附者御芳名

(敬称略)

▼釜石地区(1名) 戸塚敏彦

▼宮古地区(3名)

岩船裕道・中野俊一・川村正紀

▼九戸地区(2名)

長内誠・坂本哲也

▼二戸地区(3名)

玉田豪・岩澤利治・及川高生

(19名)

今回は、(公財)岩手県育英奨学会への助成金1万円のご寄付をいただきました岩手県高等学校長協会の令和6年度新任校長様、同じく1万円のご寄付と岩手県教育振興基金へ5千円のご寄付を

いただきました岩手県高等学校副校長協議会の令和6年度新任副校長様の正会員をご紹介させていただきます。

温かいお志をお寄せいただき、多額のご支援・ご協力を賜りましたことに衷心より感謝を申し上げます。

公益社団法人日本教育会 令和6年度第50回総会及び講演会報告

公益社団法人日本教育会の令和6年度第50回総会は6月22日(土)東京都千代田区「主婦プラザエフ」で開催されました。支部からは役員として川村祥平支部長、代議員として飯岡隆太郎氏(仙北中学校校長)、小野寺哲男氏(仙北中学校校長)が出席しました。最初に鷺山恭彦会長の挨拶があり、続く議事では令和5年度事業・会務報告、令和

6年度役員(理事)一部補充などが審議され全ての議案が満場一致で承認されました。

総会終了後「令和5年度第14回教育実践顕彰受賞者表彰式」が行われ、最高賞である「会長賞」(賞状と奨励金10万円)の榮譽に輝いた本県の野田村立野田中学校長の菊池勉氏と、岐阜県立大垣北高等学校に鷺山会長から賞状と奨励金

スポット その184

盛岡第一高等学校の副校長、佐藤宣昌先生は日本教育会岩手支部理事の他に、岩手県高等学校副校長協議会の



知っています。毎日押し寄せてくる膨大な情報、突発的な出来事に笑顔で対処し、校務を遂行している中で、職員に安心感を与えています。先生方の心身の健康管理にも気を配り、日々の声掛けも欠かしません。また、職員会議等のペーパーレス化を進めるなど、働き方改革を推進、教職員のウェルビーイングを強く意識して業務にあたっています。花巻から電車通勤をされており、始発の電車を乗車して出勤、帰宅も20時を過ぎる日々を過ごしていますが、ご自身のお体とご家庭を大切にしたいと願っています。

岩手県高等学校副校長協議会 会長
理事 佐藤 宣昌 氏
(岩手県立盛岡第一高等学校 副校長)

会長、全国高等学校副校長協議会、多くの役職についており、出張も多く多忙な日々を送っています。令和3年3月まで7年間教諭として本校で教鞭をとられていたことから、本校のことを熟

た、職員会議等のペーパーレス化を進めるなど、働き方改革を推進、教職員のウェルビーイングを強く意識して業務にあたっています。花巻から電車通勤をされており、始発の電車を乗車して出勤、帰宅も20時を過ぎる日々を過ごしていますが、ご自身のお体とご家庭を大切にしたいと願っています。

(副校長 高橋 健)



日本教育会本部での賞状伝達

が授与されました。

審査委員長の笹尾幸夫氏が野田中学校の取り組みについて「東日本大震災から12年間にわたり『ひとづくり』を教育の根本に据え、自分たちで創意工夫し作成した太鼓等を用いて復興のまちづくりに取り組んだ、素晴らしい取り組みであった」との講評がありました。

受賞者の菊池勉校長は、「自分は野田中学校に赴任して2年目であり、歴代の先生方のご努力に感謝したい。これから入学してくる生徒は東日本大震災を経験していない。これから本

当の防災教育が始まる」と決意を新たにしました。

続いて文部科学省常磐木祐一氏の講演があり、「当面の文



日本教育会本部講演会



岩手からの総会出席者

部科学行政について」と題して、「Ⅰ働き方改革」「Ⅱ学びの改革」の2点について述べられました。Ⅰについては、①学校における働き方改革について②学校・教師が担う業務の適正化、授業時数の見直し③学校における働き方改革の取り組み状況の「見える化」④教師の健康及び福祉の確保⑤スクールロイヤー等の体制構築。Ⅱについては、①何が起るかわからない時代②スマホ一つで知識を調べ得ることができるようになる③いろいろな世界の人とつながることができるよう④常識が明日変わるかわからない。

このような世の中では子どもたちに「進んで立ち向かう・学んだことを生かす・協力しながら・創造し道を切り開く」、こうした力が求められる。皆と同じ方向を向くのではなく、得意な分野を生かすよう「一人ひとりに寄り添った教育が必要である」との内容でした。

「ふるさと東山」を誇りに思える子どもの育成

一関市立東山中学校 校長 藤原 洋

本校は一関市のほぼ中央、北上山地の南端に位置する東山町内にあります。今年度は百二十名余の小規模校です。

県内でも有数の観光スポットである、舟下りで有名な猊鼻溪や、日本最古の鍾乳洞である幽玄洞等を有しており、毎年多くの観光客が訪れる地でもあります。

また、これまで数多くの先人、偉人を輩出している地でもあります。江戸時代、公共図書館を創立した青柳文蔵、碎石工場を設立した技師として宮沢賢治を迎え入れ、石灰岩の開発に乗り出した鈴木東蔵、近年、世界で活躍するスノーボーダーの岩渕麗菜さんなど、歴史を切り拓いた先人たちの姿を学ぶことにより、東山の子どもたちは、将来に夢や希望を持ち、たくましく前進できる環境で育ちます。

地域・保護者の教育に対する関心が高い地域でもあり、学校支援活動等、積極的に取り組んでいただけに、日々感謝しております。

さて、本校では「総合的な学習の時間」の中で、「地域に学ぶ」学習を3年間、系統づけて行っています。また、学んだことを各学年まとめ、保護者・地域の皆さまに文化祭で発表し、学びを共有し深めています。

◎一学年「東山を知る」

「地域に学ぶ」

「東山の歴史と輝き」と題し、地域の歴史に精通する方を講師として招聘し学習します。また、地域の伝統産業（紙漉き体験学習、紫雲石硯について学ぶ等）、石と賢治のミュージアムでの学習、防災学習等、地域に関わる様々なことについて広く学んでいきます。

◎二学年「生き方を学ぶ」

「働く人から」

東山地域の産業等、実際に職場での5日間の「社会体験学習」を通し、地域の産業の現状に触れるとともに、将来の自分の職業選択について深く考える学習を行っています。

◎三学年「生き方を考える」

「未来の東山と自分」

これまで学んできたことをもとに、「東山のこれからの町づくりや未来の東山」についての提言をまとめ発表するとともに、卒業後の進路選択に生かしています。

故郷東山に対する理解と愛着、そして東山を誇りに思える子どもたち、未来の東山を引っ張る人材を育てるため、教職員一丸となつて日々の教育活動に励んでいます。



毎年恒例の卒業記念 猊鼻溪舟下り

山の
鐘

「趣味はアマチュア無線です」と答えて何年になるだろうか。中二で無線従事者免許、中

三で局免許を取得し開局、自分の声やモルルス信号が遠くに届くことに感動しつつ、その後30を超える国々とも交信することができた▼真空管を使った無線機は、次第にトランジスタやICが使われたし、ソリッドステートという言葉は最近聞くことがない▼小型軽量化した無線機は旅行や登山でも重宝で、岩手山登山でも活躍した。今では携帯電話がこの役目を担っている▼ある時無線機を持った先輩が岩手山登山をしており、懐中電灯を向けてもらうという図々しいお願いをした。私が盛岡の自宅の屋根から双眼鏡を使って岩手山を見ると確かに懐中電灯の点滅が確認できとても驚いた▼今、電波を出すことはなくなったが、今でも老眼と部品の小ささの反比例を感じながら、時々半田ごてを握っている。

（岩手県公立学校退職校長会
盛岡地区会事務局次長

小笠原 章）